

第三回 (株) 有線ブロードネットワークス番組審議会 議事録

開催日時：平成 13 年 10 月 26 日 11：00～

開催場所：(株) 有線ブロードネットワークス本社 13F

出席者 委員： 小林亜星委員長、大島綏子副委員長、有馬祐行副委員長、青木實久委員、池田憲一委員、
山本武司委員、渡辺英夫委員（順不同・敬称略）

放送局側：9 名

議事内容

1. 課題番組

BF-11ch「歌謡曲 70'S Hits」、BF-12ch「歌謡曲 80'S Hits」、BF-13ch「歌謡曲 90'S Hits」、B-9ch「昭和歌謡」、F-9ch「グループサウンズ」、I-36ch「歌謡曲 SP 盤」を中心とした、昭和から平成にかけての歌謡史区分について。

2. 番組審議

- 「歌謡曲 SP 盤」については、その時代に合わせた楽曲を多岐にわたって放送しており感心するが、放送している楽曲に対するエピソードや時代背景などを盛り込んで、その時代の全体像がつかめるような企画にしてみてもどうか。例えば、放送されている楽曲を歌うアーティストだけでなく、その楽曲の作詞家・作曲家の生涯などにスポットをあてた番組を企画してもよいのではないだろうか。
- いわゆる、マニアックな楽曲に対する情報を開示するため、各楽曲の紹介をアナウンスするプログラム構成も必要ではないだろうか。例えば、番組全体の構成は従来どおりの状態をたもちつつ、解説をランダムに入れるなどの工夫をしてみてもどうか。
- 収集した楽曲をどのようにお客様に楽しんでもらうのかを、もっとわかりやすく伝えることはできないだろうか。
- 細かい専門的な部分を強調するよりも、その年代の人々が聴いて誰もが懐かしんでもらえるような番組づくりが大切。
- 番組タイトル名にこだわることなく、その時代に合わせた童謡、唱歌なども交えて、歌謡史全体をもってお客様に堪能していただける番組づくりを期待する。
- B-9ch「昭和歌謡」のタイトル名について、一般的に「昭和歌謡」とは昭和 10 年代ごろからの歌謡曲の総称を示すので、戦後の歌謡曲だけでなく、戦前の歌謡曲も取り入れていく必要がある。
- クラシック等のジャンルにおいては、ある程度時代区分などでセグメントする必要性を感じてはいるが、歌謡曲に関しては、その時代の楽曲を聴くというよりはむしろその時代を彷彿させるような観点で番組づくりを進めていくほうが、また違ったニュアンスが出てきてよいのではないだろうか。